

農業振興地域、都市計画の見直しについて



菅 敏徳

菅 Uターン、Iターン者や若者達が定住化出来るように農振地を段階的に除外し、条件の良い宅地開発をすることが出来ないか。例えば、構造改善事業で区画整備されたいこの村駅南側の畑地、上西黒川、赤水駅周辺などの農振除外は出来ないか。**本山農政課長** 農業振興地域制度は農業の振興を図るためのものであつて、除外を促進するものではないとみません。旧町村時代からまとまりのある農振地域が設定してあることから将来的に宅地化しようという理由で除外することが難しくなっており、今の段階では年に2回行われる通常の一般除外申請の中でやるしかありません。

菅 都市計画区域や用途地域の指定等について、見直しはあるのか。**井野企画振興課長** 都市計画区域は、計画的な市街地形成を図る一面と、無計画な乱開発を抑制する面を併せもっており、見直しに当たっては慎重に運ぶべきと思います。このため、阿蘇市都市計画基礎調査を実施し、

今後の市街化の進展状況や開発動向等を見極めていくところです。また、今後のまちづくりを進めていく中で、阿蘇市都市計画審議会が設置されていますので、都市計画区域の見直しや用途地域の指定（住居地区、商業地区、工業地区）を審議会に諮問させていただき、その答申を受けて、市の方針を決めさせていきたいと思っています。

他に、「保安林の適正な管理と解除について」、「土砂、山腹、土石流の特別警戒区域の県との協議について」の質問がありました。



区画整備されたいこの村駅南側の畑地

国立阿蘇青少年交流の家の存続を



蔵原 博敏

蔵原 政府やマスコミ等で事業仕分けという言葉が頻繁に交わされているが、青少年交流の家の扱いはどうなっているか。11月に市長から存続を求める陳情がなされたとの事だが感触は。

佐藤市長 関係市町村長合同で民主党の議員に要望を行いました。12月中旬に閣議決定の予定ですが、存続か、新しく法人をつくらなければならないのか、瀬戸際との事でした。次世代を担う青少年教育と実践活動の上から大変重要な施設であり、是非とも現状での存続をお願いしました。

蔵原 平成22年度の利用者は14万6千人近くに上っており、全国281施設中2番目の実績を上げています。企画や活動を見ると、本市が取り組んでいる草原再生やジオパークの推進に連動するものが沢山含まれており、先日可決された「阿蘇の自然体験活動の推進に関する条例」の趣旨にも合致している。活動の拠点として重要な存在と思うが。

岩下教育部長 条例の性格上、交流の家の存続は必要不可欠だと思います。蔵原 今迄執行部や議会から単発的な支援活動は行ってきたが、存続運

動や啓発活動は市民の方々の力がないければ盛り上がりがない。事態の周知と活動の高揚につながる取り組みが必要と思う。一つの提案として区長さん方に相談して、阿蘇市全体の署名活動は出来ないものか。

佐藤総務課長 区長さんを通じて行政が直接お願いするのではなく、民間による母体をつくって運動を展開することが市民全体への広がりにつながると思います。

市長 住民の皆さんに賛同を募りながら、県選出の国会議員団にも阿蘇市の意向を伝え、行動を急ぐべきであり、これからも続けていく課題と

思います。

他に、「内柴選手問題」の質問がありました。



国立阿蘇青少年交流の家

旧参勤交代道（肥後街道）と 黒川原野の観光活用について



阿南 善範

本山農政課長 制限はありません。

阿南 最近、登山道路脇に車を止め、阿蘇の風景を楽しんだり、牛馬と写真を撮ったりする観光客が増え、事故等の発生も考えられる。安全帯の整備が必要ではないか。

商工観光課長 県の土木部や牧野組合との話し合いが必要であり、そう簡単には解決しないと思っております。他に、「地域通貨について」の質問がありました。

阿南 内牧地区西部に残る参勤交代道の活用についてだが、合併前に整備が行われ、現在二重の峠まで美しい道が出来ている。地元の方々が毎年数回にわたり清掃もされているがこの道の今後の活用方法についてはどう考えているのか。

吉良商工観光課長 狩尾の参勤交代道については、これまで紹介する機会がありませんでしたけれども、今後は元気ウオーク等のコースの一部として取り入れ、活用を計りたいと考えています。

阿南 現存する参勤道は文化的にも歴史的にも重要な遺産であるので、今後とも活用を積極的に推進してほしいと思うが。

商工観光課長 今後、整備が進めばトレッキングコース等として活用したいと思います。

阿南 阿蘇山北側の原野（南山）の活用という部分で、原野部分と森林部分を組み合わせる周年放牧等を考えた場合に法的な制限はあるのか。



路肩停車の車

阿蘇市農政の方向性について



市原 正

市原 9月定例会で「今後、阿蘇市イメージキャラクターのシールを活用した取り組みをしたい。」という答弁を農政課長から頂いたが、さっそく農政課として取り組まれた「阿蘇市の安心安全な農産物の販売戦略活動への取り組みについて」説明を求める。

本山農政課長 3月にイメージキャラクターを農産物の販売に活かそうと、市内の直販所の農産物の全てにシールを張るキャンペーンを行い、かなり効果があつたと受け止めております。今後は販売促進を目的に、直販所7施設の協議会を立ち上げるように計画しており、安心安全な作物を前面に打ち出したシールへの取り組みを、年間を通した展開でやっていくこうと思っております。

市原 大いに期待をする次第であるが、ここで農政課に一つ提案がある。昨日の一般質問にインターネット動画の件があつたが、市長へのアクセスは35万回を超え、全国で市長の行動が注目されており、先日も市長が

家畜市場に生産者激励に行かれるなど、長靴姿で活発に行動される市長は市民から高く評価されている。市長がいさつ等で使われる「阿蘇市は元気が一番」という言葉をキャラクターと一緒にしたシールのデザインはどうかと提案する。

農政課長 今回のシールの展開は、今後さらに協議会を中心に、いろいろ模索しながら検討したいと思っております。



四季彩一の宮